

秋輪ギク「神馬」「精興の秋」の露心花回避のための再電照法

秋輪ギク「神馬」「精興の秋」は露心花が発生しやすいが、総ほう形成後期～小花形成前期にあたる消灯12～16日後から4日間再電照すると舌状花が増加し、管状花が減少し、露心花発生の軽減出来る。

農業研究センター 農産園芸研究所 花き研究室 (担当者: 金子 英一)

研究のねらい

秋輪ギクの生産では「秀芳の力」から「神馬」「精興の秋」等へ品種の更新が進んでいる。しかし「神馬」「精興の秋」では舌状花が少なく、管状花が多いので開花が進むと、舌状花に覆われていた管状花が中心に見える露心花となる。そこで、露心花発生の軽減のための再電照法について検討する。

研究の成果

1. 再電照をしない場合、両品種とも舌状花数は150程度あり、管状花は「神馬」で100程度、「精興の秋」で130程度あり、外観上露心花となる(図1)。
2. 消灯12～16日後から4日間の再電照により舌状花の数が増加し、舌状花の数が増加する(図1)。
3. 消灯12～16日後から4日間の再電照により、開花は4～6日遅れる(表1)。
4. 消灯12～16日後の花芽分化段階は「神馬」では総苞形成後期～小花形成後期、「精興の秋」では総苞形成後期～小花形成前期である(表2)。

普及上の留意点

1. 栽培温度が最低15の結果であるので、栽培温度が異なる場合は花芽分化段階を検鏡のうえ再電照開始時期を決める。
2. 5月出しの作型では反応が異なる(図2)。

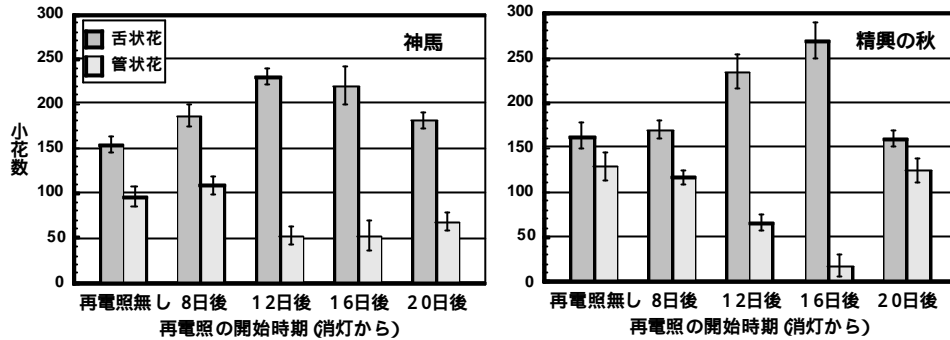


図1 再電照の開始時期が舌状花数および管状花数に及ぼす影響 (再電照:4日間)

表1 再電照の開始時期が開花及切り花形質に及ぼす影響

品種名	再電照開始時期	開花日	到花日数	消灯時		切花長	葉数	柳葉数	花首長	切花重	
				草丈	葉数						
神馬	再電なし	12	10	50.2 ± 1.0	46	24.7	95	49.2	0.7	15	71
	8日後	12	15	54.5 ± 0.8	47	26.1	99	50.2	1.0	22	65
	12日後	12	14	54.2 ± 0.6	49	26.8	102	51.5	0.8	17	70
	16日後	12	17	56.7 ± 0.5	50	26.5	102	52.3	0.8	15	71
	20日後	12	16	55.6 ± 0.9	52	27.0	101	52.2	0.8	19	74
精興の秋	再電なし	12	17	56.9 ± 0.7	38	22.3	79	46.1	0.8	10	57
	8日後	12	22	62.4 ± 0.9	34	21.1	86	45.0	1.4	26	61
	12日後	12	22	61.6 ± 0.9	36	21.4	83	45.4	1.2	21	61
	16日後	12	23	62.6 ± 0.8	35	20.0	85	43.3	1.3	25	56
	20日後	12	21	61.4 ± 0.7	35	21.2	78	44.8	0.9	15	57

耕種概要 定植: 9月8日(プランター植え) 消灯: 10月21日 栽培温度: 最低 15

表2 消灯時の花芽分化段階 (分化株数 / 調査株数)

開始時期 (消灯後)	神馬: 花芽分化段階								精興の秋: 花芽分化段階						
	2	3	4	5	6	7	8	2	3	4	5	6	7		
8日後	5/5								5/5						
12日後	5/5								1/5 4/5						
16日後	2/5 3/5								5/5						
20日後	1/5 4/5								5/5						

花芽分化段階 2: 生長点膨大期、3: 総ほう形成前期、4: 総ほう形成後期、
5: 小花形成前期、6: 小花形成後期、7: 花弁形成前期、8: 花弁形成後期



写真1 「神馬」の露心花
舌状花: 白い花びら状の部分
管状花: 中央の黄色の部分

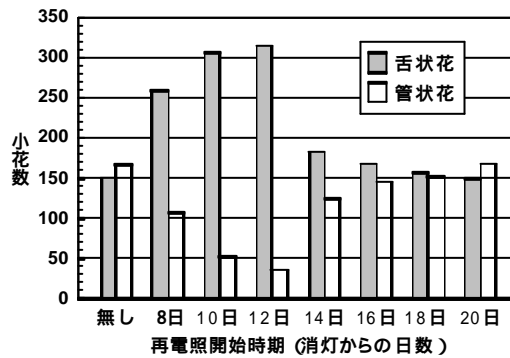


図2 再電照の開始時期が舌状花及び管状花数に及ぼす影響 (5月出し: 精興の秋)